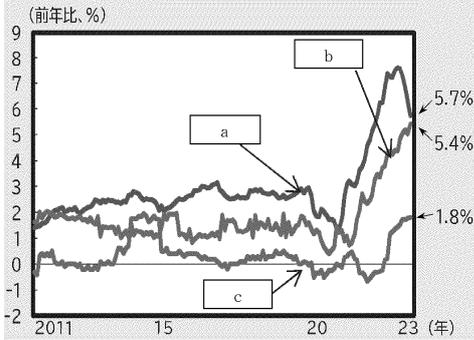


【的中問題！】一部ご紹介致します！

大原：直前対策模擬試験②－第1問

下図は、日本、アメリカ、ユーロ圏の消費者物価のうち、サービスに関する物価（サービス物価）の推移を示したものである。図中のa～cに該当する国・地域の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問1へマークせよ。

〔サービス物価〕



出所：内閣府『令和5年度経済財政白書』

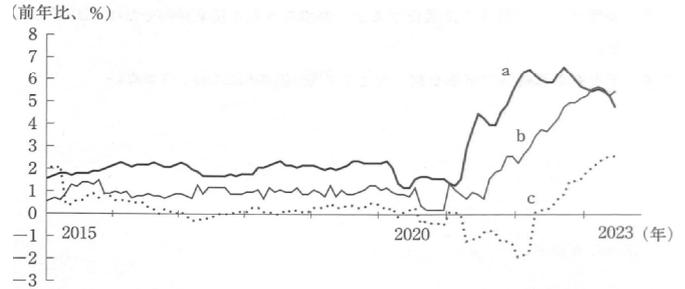
〔解答群〕

- ア a：日本 b：アメリカ c：ユーロ圏
- イ a：日本 b：ユーロ圏 c：アメリカ
- ウ a：アメリカ b：ユーロ圏 c：日本
- エ a：ユーロ圏 b：日本 c：アメリカ
- オ a：ユーロ圏 b：アメリカ c：日本

本試験：第3問

下図は、日本、米国、ユーロ圏の消費者物価(食料及びエネルギーを除く総合、前年比、%)の推移を示したものである。

図中のa～cに該当する国・地域の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



出所：内閣府『令和5年度 経済財政白書』

〔解答群〕

- ア a：日本 b：米国 c：ユーロ圏
- イ a：米国 b：日本 c：ユーロ圏
- ウ a：米国 b：ユーロ圏 c：日本
- エ a：ユーロ圏 b：日本 c：米国
- オ a：ユーロ圏 b：米国 c：日本

大原：公開模擬試験－第19問

公共財及び私的財の特徴に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問21へマークせよ。

- a 公共財は、非競争性と非排他性を持つので、等量消費は不可能である。
- b 有料のケーブルテレビは、他の対価を支払った消費者の視聴を妨げることはないため、競争性を持つが排他性を持たない。
- c 海洋漁業における水産資源は、すべての漁業者が無償で漁を行うことができるため、排他性を持たないが競争性を持つ。
- d 私的財は、非競争性と非排他性を持たないので、フリーライダーの問題が生じる。

〔解答群〕

- ア a：正 b：正 c：誤 d：正
- イ a：正 b：誤 c：正 d：誤
- ウ a：誤 b：正 c：正 d：誤
- エ a：誤 b：誤 c：正 d：誤
- オ a：誤 b：誤 c：誤 d：正

本試験：第19問

家計が消費する財・サービスは、①消費が競争するかどうか(競争性)と、②対価を支払わない人の消費を排除できるかどうか(排除可能性)に基づき、下表のとおり4つに分類できる。表中のAとBに入る財・サービスの例として、最も適切な組み合わせを下記の解答群から選べ。

消費に関する性質	競争する	競争しない
排除可能		A
排除不可能	B	

〔解答群〕

- ア A：公海に生息する魚介類
B：混雑現象を伴わない有料道路
- イ A：公海に生息する魚介類
B：晴れた日の日光浴
- ウ A：晴れた日の日光浴
B：有料配信のオンライン視聴サービス
- エ A：有料配信のオンライン視聴サービス
B：混雑現象を伴う一般道路
- オ A：有料配信のオンライン視聴サービス
B：晴れた日の日光浴

① 経済学・経済政策

【総評】

令和6年度の本試験は、過去23年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中23問が5肢択一であったが、今年度は25問中21問が5肢択一であり、若干減ってはいるものの引き続き5肢択一の問題の多さが目立った。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が11問出題されたが、今年度も11問出題された。近年の正誤問題の多さも大きな特徴である。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題もあるが、5肢択一問題や正誤問題の多さが、昨年引き続き全体的な難易度を上げている。つまり、前年度と同様、比較的高い難易度であったと予想できる。よって、今年の問題は、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学13問、ミクロ経済学12問であった。

第1問～第12問がマクロ経済学からの出題問題と考えられる。例年見られる統計資料をもとにした出題が3問あった。基本的な論点に関する問題として、第4問（国民経済計算）、第7問（減税の乗数効果）で得点を取りたい。第5問（ケインズ型消費関数）、第10問（マンデル＝フレミング・モデル）も正答したいところである。

第13問～第22問がミクロ経済学からの出題問題と考えられる。微分を用いる計算問題などは出題されず、頻出論点を中心に、基本事項やその応用問題が出題された。基本的な論点に関する問題として、第13問（需要の価格弾力性）、第16問設問2（損益分岐点と操業停止点）、第17問（独占市場）で得点を取りたい。第19問（公共財）も正答したいところである。第18問（消費の外部不経済）は、通常のパターン（社会的供給曲線が上方に位置する）とは異なったケースであるが、完全競争均衡下では死荷重が生じ、最適均衡下では死荷重が解消されることを念頭に置いて余剰分析ができれば、得点可能な問題である。

以上